

内陸アジアの高地文化に 触れてみる

2023年12月16日(土)

鶴見大学記念館ホール



つるみん



つるたん

事前登録: 不要 参加費: 無料

アジアの内陸部はタクラマカン砂漠でも標高が1000mあり、北にあるモンゴルには2000mを超える山々が、モンゴルとチベットの間には3000mの山々が連なり、南には4000mのチベット高原が広がり、そこからインド洋に抜ける道には8000m級のヒマラヤがそびえ立ちます。この広大な高地で境界を忘れると、そこには地球の中でも特異な地理的特徴を持つユーラシア高地文化と呼べる人々の交流と生活文化が息づいています。文化に触れる講演会の第8弾では内陸アジアの広大な高地で区分を越境し人々が交流してきた様子に触れてみます。ご講演頂く先生はフィールドワークを通し生活や言語、歴史を研究されておられる方々で、肌で感じたお話も伺える貴重な機会です。ぜひご参加下さい。

12:30 開場

13:00 開演

13:00~13:10 「趣旨説明と高地文化の紹介」

13:10~13:50 「人力で渡る内陸アジアの高地文化」

別所裕介

13:50~14:30 「文学理論もヒマラヤを超える？」

チベット詩の世界」

海老原志穂

14:30~14:50 休憩

14:50~15:30 「ゾウの旅:インドからチベット經由北京まで」

小松原ゆり

15:30~16:10 質疑応答



JR横浜駅から京浜東北線で10分のJR鶴見駅から徒歩6分

別所裕介(べっしょ ゆうすけ)



駒澤大学
准教授
文化人類学
専門はチベット高原の近代化
と文化変容。夢はチベットで
羊飼になること。

海老原志穂(えびはら しほ)



東京外国語大学
フェロー
言語学
専門はチベット現代文学、
チベット語の方言研究。
牧畜や郷土料理の研究も
しています。

小松原ゆり(こまつばら ゆり)



明治大学
兼任講師
歴史学
清朝・チベット・ネパールの
政治的関係を研究して
います。

企画・開催 鶴見大学比較文化研究所